

## 何をどのように書くか（小説）

20200730

ー 島根県高文連文学部門小説コンクール選評よりー

洲浜 昌三

この文章は2022年7月30日に矢上高校で開催された構文連文学部門の研修会に依頼されて講演した資料の一部です。それぞれの作品の選評は600字くらいありますが、その文章の中で、**小説を書く時に心得て置きたいポイントを太字で強調していましたので、それをピックアップしたものです。**

島根県高等学校文化連盟の学芸部門 小説、随筆コンクールの審査を依頼されたのは平成19年(2007)でした。以来14年、多い時には80編以上、少ない時でも30～40編の作品を読み選考してきました。短期間で読み選評を書くのは大変ですが、いい作品に出会ったときの喜び、小説に挑戦する生徒さんの熱意を思うと、いい加減にはできません。読んだ作品の選評はノートにもPCにも保存していますが、最近の寸評の中から、小説などを書くに参考になると思えるコメントをピックアップしてみました。**懸命に試行錯誤している時に出会ったときの言葉は、暗闇に予期しない光を投じてくれる場合があります。参考になれば幸いです。**

「何を書くか」「どのように書くか」「言葉による表現とは」「詩とは何か」「詩、散文詩、小説の違いは何か」「劇による表現とは」「観客にどのように伝えるか」ーものを書くとは、それを模索する長い旅でもあります。

私は、創作メモノートに、思いついた時、ヒントになる言葉をメモしてきました。また、新聞や雑誌などで、キーになる文章に出会うと、コピーしたり切り抜いたりして保存しています。日頃の意識や資料の準備はとても大切です。

### 構文連 文学部門『作品集』の選評からピックアップした文章

1. 文学に何を求めるか。カタルシスの重要さ（心の鬱積を開放し浄化する = 感動）
1. 独自の個であり、同時に普遍性が必要。
1. 足元の井戸を深く掘れ。そうすればいろいろな水脈がや地層に出会う。（並列は浅い）
1. 短編小説は、素材、切り口、視点、着想が大切。
1. 状況を設定して物語や事件を構築、そこから真実や感動を引き出すー文学の重要な手法。

1. 伝統的な「起承転結」を踏んで書けば安定した作品になる。

1. 下手に起承転結を踏襲すれば、作為が覗いてリアリティを失う。骨が見える。

1. 小説は、虚構＝フィクション。嘘の枠を創り、人物や場面を設定し、物語を展開する。

重要なのは、そこにリアリティがあり、現実以上の真実を描き出し、読む人の心に響くこと。嘘から出た真。

1. 作者が創りだした人物は、独自の個性と肉体、考え、感情を持って生きている。

だから、衝突し、ケンカをし、反発し、共感し、誤解し、裏切りなど、生きた人間の世界が生まれる。

1. 終わりまで人物に変化がないのでは小説にも劇にもならない。変化するためには根拠やきっかけや理由が必要。これが難しいところ。いじめられて不登校だった生徒が登校できるようになるためには、説得力のある根拠が必要。ここに創作の苦闘がある。作品に対する作者の誠実さが問われる。

1. 強い者が弱い者を負かしても当たり前。「いじめ」になる。弱い者が強い者を負かすと、感動や希望が生まれる。しかし安易な手を使うとヤラセになりマンガやアニメになる。弱者が強者を負かすためには、説得力のある仕掛けやフィクションが必要。そこに哲学、思想、思考力、想像力、創作力が必要になる。大変な知的重労働。

1. 着想は核。そこから骨格、ストーリーが生まれる。骨には肉付けが必要。肉付けとは描写。説明ではない。

1. 書きたい動機がないのに書いた作品は、熱が伝わらなず作り話臭くなる。小説や劇は「嘘から真」を引き出す装置。作品と作者との間に緊張感や誠実な問題意識がないと読者の心

に響かない。

1. 構造は「幹と枝」。文章は「葉っぱ」。幹や枝は葉っぱに隠れて見えないほうがいい。

幹や枝はプロット。葉っぱは言葉。

1. 文字はイメージを喚起する媒介。その言葉や表現が読者に、どんなイメージを歓喜するか意識して書く。言葉の関係性が詩を生み、イメージや風景を生む。

1. 効果的な布石は、置いておくだけで説明しなくても後で絶大な効果を生み出す。

1. 題は内容を端的に表すシンボル、作品の顔。限定的なイメージより、想像が広がっていくような題をつけたい。

1. ラストは難しい。読者の想像に任せるのも重要な手法。論文のように「結」は不要。押し付けや説明は芸術の最大の敵。

1. 普通のことを普通の視点で普通の文章で書いても、退屈するだけ。わくわく感が必要。わくわく感とは、先が読めない、読者を裏切ること、期待や希望が先にある。

1. 冒頭からラストが分かるような構成は退屈。読者、観客を裏切りながら展開する。

1. 構成の技巧が目立つと嘘も浮き上がる。骨が丸見え。葉で隠せ。(葉＝言葉、描写)

1. 作者の考えや感性が自然に滲み出てくるところに随筆の魅力や面白さがある。

1. 作者の精神性や志向性や感性など内面的なことが伝わってくるのが面白い

以下略